

療、安静度、処置、薬剤、看護ケア項目の変更や修正を繰り返し現在のパスに落ち着いた。

平成20年6月から平成21年5月までの40例に対しバリエーションシート記入と分析を行った。バリエーションの発生は6件で40人中に占める割合は6.6%。発生内容はすべて患者側の要因であった。

V. 考 察

患者は、59歳から90歳、平均年齢77歳と高齢化の傾向にある。バリエーションの発生がすべて患者要因であった点からも、治療に対するリスクを考慮し合併症の予防が重要となる。

バリエーションシートの分析からは、同一事項に対する看護師の判断のバラツキや認識の違いが感じられた。

アンケート結果からは、ほとんどの看護師が現在のパスが理解しやすい、使用しやすいと答えている。

患者側もパスからの情報を得ることにより、手術に対する心構えや治療後の準備ができる点などで、患者満足度を高められ、パスによって患者の不安が軽減されているとの感想を得ている。医師や、看護師、患者からの意見を反映し作成・改定してきたパスによって治療、看護は標準化と質の向上を目指してきていると感じた。

VI. 終わりに

今後もパスを活用し、合併症の予防を図りながら、ケアの提供に努力していきたい。

入院時オリエンテーション内容の検討

—入院時チェックリストの修正および入院案内パンフレットの作成—

5-1病棟 宮川 香好子 外山 智代
三浦 智美

I. はじめに

5-1病棟では、業務の引き継ぎ（入院時の書類処理が確実に行えているか、また書類の回収ができていないか、入院時のオリエンテーションがどこまでできているのかなど）に活用するために独自の入院時チェックリスト（以下、チェックリストとする）を作成している。

しかし、チェックリストに関するマニュアルの作成がなかったために、実践の統一ができていなかった。また、入院患者の高齢化にともない入院時のオリエンテーションにも工夫が必要であり、課題となっていた。そこで今回、チェックリストの内容を現状の課題・問題に合わせて修正した。更に入院時オリエンテーションの内容について検討を行った。その結果、病棟独自の入院案内パンフレットを作成することができた。ここで一連の活動内容を報告する。

II. 活動方法

1. チェックリストの内容を見直す
2. チェックリストの各項目について明文化し、

マニュアルを作成

3. 看護師それぞれが実施している入院時オリエンテーションの内容、患者・家族からの質問内容について聞き取りを行う

III. 活動の現状

従来使用してきたチェックリストでは、入院時の書類の処理はほぼできていた。しかし、貴重品が盗難・紛失するという事例がいくつかあり、看護師の貴重品の管理への認識、説明内容の違いがあることが分かった。そこでチェックリストに、貴重品（金銭、義歯、補聴器など）持参の有無を確認すること等を加え、管理方法について追加・修正をした。更に、チェックリストの活用状況が統一できるようにマニュアルを作成。チェックリストの修正に沿って入院時オリエンテーションの内容を検討した。結果、視覚に訴え、わかりやすい表現を目標とした入院案内パンフレット「5-1病棟入院のご案内」を作成した。

IV. 考 察

入院時の書類の多さには、患者・家族のみならず、書類を取り扱う看護師も時に混乱する。日々の業務を煩雑にしないためにもチェックリストは有用である。また安心して入院生活を送ってもらうためには、慣れない環境に馴染めるように説明責任を果たしていく必要がある。

環境整備の一貫として、チェックリストは、看護師が、入院生活に関わる最低限の説明を行うことをサポートし、業務の引継ぎに役立っている。チェックリストは有用ではあったが、マニュアルがないことにより実践に差が生じ、患者・家族への説明不足があった。それは、貴重品の紛失や入

院生活の混乱へと通じ、互いの不利益へとつながった。マニュアルの作成は、チェックリストの各項目の必要性を吟味する機会となった。また、入院時オリエンテーションの重要性と責任を再認識することができた。活動を通して、看護師の入院時オリエンテーションに関する問題意識を引き出し、解決に向けて行動できたことが有益であったと考える。

VI. おわりに

修正したチェックリストと入院案内パンフレットは今後活用していくことになっている。実践と評価を繰り返して、より良い看護を目指していきたい。

高齢者の下痢に伴う殿部のスキントラブルに対する撥水剤の有効性の検討

5-2病棟 池上 絢美

I. はじめに

当病棟は慢性期・老年期病棟である。長期臥床を余儀なくされている患者が多い。高齢者の皮膚は保湿・弾力性が低下している。オムツを使用するとオムツ内の皮膚が高温多湿の環境に置かれ皮膚のバリア機能が障害されやすい状態にある。日常の臨床の場ではこのような要介護高齢者に下痢が始まったことが起因して殿部にスキントラブルを起してしまっている場面を度々見ることがあった。そこで皮膚のバリア機能を保持するために下痢を起こしたオムツ装着者の高齢者に、保護・保湿効果のある撥水性皮膚保護剤のセキュラPOを塗布し殿部のスキントラブルが予防可能か明らかにしたいと考えた。現在、実施段階であり、途中経過を報告する。

II. 研究目的

セキュラPOが下痢によるスキントラブルを予防できるか

III. 研究方法

対象者：要介護4から5以上の高齢者でオムツ

を使用している患者、泥状あるいは液状に近い便（以下下痢）が始まった患者4名

研究期間：平成22年9月～平成22年11月

1. 1日1回対象者の殿部にセキュラPOを5g塗布する
2. 過度な皮膚への刺激は皮膚のバリア機能を低下させるため、陰部洗浄は1日1回とし対象者にセキュラPOを塗布した後は翌日まで陰部洗浄は施行しない
3. ブリストル排便スケールを使用し、どのような性状の便を排泄しているか把握する
4. 1週間施行する
5. 対象者に評価表を用意し皮膚の状態、排便の性状の変化について記載する

IV. 倫理的配慮

患者の個人情報の保護、不利益を生じないよう患者及び家族に口頭・紙面で研究目的・内容について説明し、同意書を得て施行した。

V. 結 果

対象者4例中、殿部の発赤がなかった症例が3例、殿部の発赤があった症例が1例あった。研究